

2015 京大病院オープンホスピタル

10回目を迎え、多くの市民や学生の皆さんに来場いただきました。

家族連れでにぎわうパネル展示や体験コーナー。

10月31日(土)10時から、京大病院オープンホスピタルを開催しました。京大病院の医療や取り組みを広く地域の皆さんにご紹介し、医療職をめざす学生にも医療現場を見てもらおうと毎年開催しているイベントです。2006年から行っている看護フェアを含めると今年で10回目を数え、これを記念して稲垣 暢也 病院長の講演を行うなど例年以上ににぎわい、800名の来場者を迎えました。

会場となった外来棟アトリウムホールでは、北病棟、南病棟、積貞棟、ICUなど各病棟の取り組みを「パネル展示」でわかりやすく紹介するとともに、病棟に勤務する看護師が来場者の皆さんに詳しい説明を行いました。また、看護部、薬剤部、検査部、放射線部、医療器材部、疾患栄養治療部など各部門での取り組みもポスターなどで展示し、京大病院の今をお伝えしました。

世代を超えて多くの市民の方に参加いただいたのが「体験コーナー」です。シミュ

レーターを使って注射器で採血を体験する採血シミュレーションや新生児の人形を使っての育児体験には、子どもたちが列を作っていました。また、一次救命処置法(BLS)、体に重りをつけて高齢者の生活動作を疑似体験する老人体験に家族で参加する方も多く、健康について考えていただく機会になったようです。今年度は新たに診療科からのブース出展があり、呼吸器内科による健常ボランティア研究協力として、市民の方の呼吸抵抗値の測定を行いました。

病院長講演にも幅広い世代の参加がありました。

臨床第一講堂では、糖尿病・内分泌・栄養内科教授である稲垣病院長による講演「健康に長生きするために」を開催しました。学生から高齢の方まで、幅広い年代の方の参加で、会場はいっぱいになりました。稲垣 病院長はまず、スライドで京大病院の新病棟の完成図を紹介し、「ここ数年で患者さんがより高度な治療を快適に受けていただける環境が整備される予定です。新しくなる京大病院をよろしく願います」とあいさつしました。続いて、世界一の長寿国・日本において、健康寿命を保つ重要性和、そのためには血管をいかに大切にするかがポイントだと紹介。糖尿病の患者さんが増加する中、予防のためには昔ながらの一汁三菜や腹八分目の食事、に

ここペースで楽しめる運動などが有効であることをわかりやすく紹介しました。講演の後は参加者との質疑応答も行き、和やかな雰囲気のもと閉会しました。

病院長講演の後は、同じ会場で恒例の「京大病院寄席」を開催しました。桂雀三郎、桂ひろばのお2人による落語で、会場は笑いの渦に包まれました。

エントランスホールでは、ランチタイムに京大職員・学生による混声合唱「かるがも♪あんさんぶる♪」のミニコンサートが開かれました。美しいハーモニーとピアノの音色に耳を傾ける患者さんも多く、院内に心温まる時間が流れました。

オープンホスピタルは、医療職をめざす学生や転職を考えている看護師の方に当院を知っていただく機会でもあります。看護部では、看護職をめざす学生を対象にした病棟見学会を実施したほか、就職相談コーナーを常設しました。放射線部と検査部では、それぞれ診療放射線技師、臨床検査技師をめざす学生のための見学会を行い、京大病院の今を体感してもらいました。

VOICE!

看護部の病棟見学会に参加した学生の皆さんの声

京大病院ならではの最先端の医療や看護を見てみたいと思い、参加しました。私が抱いていたイメージとはまるで違い、明るく開放的な病院で職員の皆さんがとてもフレンドリー。よい意味で驚きました。

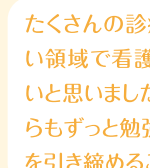


(大阪府 大学2年生)



(京都府 大学1年生)

環境が整った看護部の寮を見学して、看護師の生活や健康を大切にしている病院だと思いました。看護師が健康でなければ質の高い看護ができないということにも気づき、よい勉強になりました。



(京都府 大学1年生)

たくさんの診療科があることに驚き、幅広い領域で看護が経験できるのは素晴らしいと思いました。同時に、看護師になってからもずっと勉強しないといけない、と気持ちを引き締めることができました。